

真鶴の漁業伝統～魚つき保安林～

神奈川県・真鶴町



江戸時代、度重なる大火による幕府の「材木資材確保」政策により、寛文12年（1672年）小田原藩が領内各村に「松苗15万本」を割り当て、真鶴半島にも植林されたことが、この保安林の始まり。今でも「御林」と呼ばれる鬱蒼とした森が海に影を落とし、枯葉や虫が魚のエサを生み、漁師の間で、魚の集まる森として大切に守られてきた。真鶴半島をぐるっと取り囲む定置網群は、まさにこの森の恩恵を受け、現在35haがその指定となっている。町では、定期的に松くい虫の駆除などを行い、次世代へ残していけるよう努力を続けている。

TOPICS

・貴船まつり 7月27日～28日 開催

お問い合わせ先

真鶴町産業観光課

TEL / 0465-68-1131

【交通】

バス / JR真鶴駅から15分

